

今年のお題 夢のアウトドア生活

趣旨

コロナやあれこれで3年も夏合宿ができなかった、「一人で」「家族で」のアウトドアは人気で広がっているのだが、部活で・たくさんでとなるとできない事ばかりとなっている。ともあれ、各自がどんなことを、どんな場所でやってみたいか、自分の夢で結構なので、自己紹介とあわせて600字以上程度で書いて欲しい。

顧問 熊野谿 寛

この数年間、山にもろくに行けない日々が続いている。せいぜい、日帰りで八ヶ岳あたりの裏山をお散歩する程度が多く、身体も足取りもすっかり重くなってしまった。神奈川私学教職員組合連合の三役になったことが大きな転機だが、5年位前には年間65日は岩や氷を相手にしていたのと比べると、とんでもない変化だ。さらにコロナ禍による「STAY HOME」も重なって、すっかりクライミングから遠ざかってしまった。こうなると、簡単には「再開」できない。身体の動きや筋肉が落ちるのは簡単だが、戻すのは大変。一から丁寧にやり直さないとつまらない所であっさり死にかねないので、足が遠のくことになる。そんなこんなで、八ヶ岳山麓の別荘でせっせと財政分析資料や会議資料を作ったり、疲れてボーッとしている日が増えてしまった。ただ、全国で不当に解雇された仲間を思い、不当な人権侵害に共に怒り、共に支えあう人間の暖かさに涙することは新たな力を与えてくれるのだが。

もっとも、こんな生活もあと少しで65歳の賞味期限となる。さて、何からやろう、どうしよう…と考えると実にたくさんのやるべきことが浮かんでくる。とりあえずは、別荘から裏山の八ヶ岳に最低でも週に1度は登ろう。できたら少しばかり重たい荷物を担いで、山頂で無線をやり、実験することを日課にしよう。人手不足の山小屋で、ボランティアで荷揚げをさせてもらおうと身体も少しは引き締まるだろう。そして、やっぱりクライミングだ。広沢寺、三つ峠、そして小川山あたりでじっくり楽しもう。また、奥秩父や甲斐駒の沢も通うのにはよさそうだ。

まずはこんな具合に足場から一歩一歩再生しないとダメだろう。そして、元気なうちにポロ車でのんびりと旅に出たい。無線機材と山道具を担いでの旅だ。東北の山、日本海側の山、そして関西の山…と、別に百名山なんてどうでもよいから、山麓と山と自然・そして人をじっくりと味わいたいものだ。

さらに、欲深い私には作りたい無線機や実験したい電波伝搬もたくさんある。この世の不条理に怒ることを忘れるわけにもいかない。人生も年金もいくらあっても足りないが、実際にはどちらも少なく乏しい。せめて「寿命」のロウソクの長い奴をどこかの山で捨てる事ができたらいいのだけどなあ。